

◇ 重点目標を達成するための行動計画（アクションプラン）

— 学 習 指 導 —

アクションプラン1	
重点課題	◎ 学習習慣の定着 ◎ 読書活動の充実
現 状	◇ 昨年度は、各担任が子どもたちに家庭学習の方法を示し、その実態に応じて個別に指導した。その結果、担任が力を付けたいと願う内容と子どもがやりたい内容にずれがあり、いかに意欲をもたせていくかが課題となった。そこで、本年度は一人一人に応じた意図的なかわり方を担任が工夫していく必要がある。 ◇ 読書活動では、どの学年も目標冊数の80%以上を達成したが、今年度も継続して取り組みたい。昨年度は、お薦めの本カードを書くことにより、友達の紹介した本を進んで読み、読書ジャンルが広がりつつある。そこで、図書だよりを発行したり教員もお薦めの本を紹介したりするなどして働きかけていきたい。
目 標	◇ 意欲的に家庭学習に取り組む児童が80%以上 ◇ 毎月、低学年8冊、中学年4冊、高学年2冊以上の本を読む児童が80%以上
方 策	
1	学習が定着したり次時への意欲につながったりするように、一人一人に応じた家庭学習のやり方を指導する。
2	家庭学習のがんばりを賞賛し、よい取り組みを広める。
3	月に一冊お薦めの本を選び、紹介する場を設ける。（お薦めカード・放送による発表）
4	図書だよりを発行して家庭での読書を奨励したり、教員もお薦めの本を紹介したりして、読書のジャンルが広がるようにする。
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

取 組 状 況	
1 児童の実態と考察	2 方策について
次年度へ向けての改善点	
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

学校関係者評価書	学校関係者評価委員	5名
	学校関係者評価委員会の実施日	5月 日、8月 日、1月 日
項 目	意 見	
目標の達成状況		
方策への取組状況		
改善点		
その他		

— 生徒指導 —

アクションプラン2

重点課題		◎ 思いやりの心の育成（自分・相手・もの）
現状	◇ 日ごろの言動、全国学力・学習状況調査や校内のアンケート結果などから、自分に自信をもつことや自己肯定感の低さが見られる。そこで、温かい人間関係づくりに努め、自尊感情をはぐくんでいきたい。 ◇ あいさつについては、概ね目標を達成しているが、継続して取り組みたい。 ◇ 身の回りの整理整頓や使ったものの後片づけが苦手だという実態が学校でも家庭でも明らかになった。親子で一緒に取り組む時間をつくるなど工夫し、今年度も継続していきたい。	
目標	◇ 自分にはよいところがあると自信をもつことができる児童の目標達成率 80%以上 ◇ 自分から元気よく、友達・家族・地域の人にあいさつした児童の目標達成率 80%以上 ◇ 使った物の整理整頓ができた児童の目標達成率 70%以上	
方 策		
1	自信をもって学校生活を送ることができるように、全校の朝の活動、授業、帰りの会などで児童をほめたり児童同士互いを認め合ったりする場を設ける。	
2	道徳の時間は、「生命尊重」「思いやり・親切」などの内容を重点的に指導し、自己を見つめる書く活動を取り入れるなど、その充実に努める。	
3	学期に1回程度、思いやり週間を設け、あいさつ・整理整頓・やさしい言葉がけについて自己評価する。	
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ	

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

取組状況	
1 児童の実態と考察	2 方策について
次年度へ向けての改善点	
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

学校関係者評価書	学校関係者評価委員	5名
	学校関係者評価委員会の実施日	5月 日、8月 日、1月 日
項目	意見	
目標の達成状況		
方策への取組状況		
改善点		
その他		

— 健康・安全指導 —

アクションプラン3	
重点課題	◎ 健康な体づくり
現状	<p>◇ 昨年度は、逆上がり・壁倒立ができる児童が70%以上を目標として取り組んだ。その結果、逆上がりは67%、壁倒立は72%と概ね目標を達成することができた。しかし、一方で、スポーツ少年団等で日常的に運動している児童とそうでない児童の二極化が見られた。そこで、今年度は全校で「みんなでチャレンジ3015」に取り組むことにより、多くの児童が多様な運動に慣れ親しむようにしたい。</p> <p>◇ 昨年度は、早寝についての強調週間等を設けて取り組んだことにより、児童や保護者の早寝に対する意識が高まってきた。しかし、一部に就寝時刻の遅い児童が見られる。また、生活調査の結果、起床時刻の遅い児童も多いことが分かった。そこで、今年度は早寝に加え、早起きについての意識も高め、生活改善に努めさせたい。</p>
目標	<p>◇ 「みんなでチャレンジ3015」達成率80%以上</p> <p>◇ 早寝早起きの目当てを達成できたと自己評価する児童の目標達成率80%以上</p>
方 策	
1	週1回チャレンジタイムを設定していろいろな運動に取り組ませたり、発表の場を設けたりする。
2	児童の実態を基に教師の研修会を行い、指導力の向上を図る。
3	健康づくりノートを活用し（5月、10月に記入）、家庭と連携しながら早寝早起きだけでなく、児童の生活全般に対する意識を高める。
4	早寝早起き強調週間を実施するとともに（6月、11月）、早寝早起きの大切さについて集会等で考える場を設ける。
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

取 組 状 況	
1 児童の実態と考察	2 方策について
次年度へ向けての改善点	
公開の方法	育友会総会、学校だよりや学級だより、学級懇談会、ホームページ

学校関係者評価書	学校関係者評価委員	5名
	学校関係者評価委員会の実施日	5月 日、8月 日、1月 日
項目	意 見	
目標の達成状況		
方策への取組状況		
改善点		
その他		